

## (1) 創垂館保存修理工事について

### 1. 創垂館の現在までに至る経緯

創垂館は明治21年に小牧山山頂西側の曲輪に、県の迎賓館的施設として建設され、翌年、小牧山が徳川家の所有となった以後も、園遊会が開かれるなどの利活用がなされてきた。

しかし、昭和5年に小牧山が小牧町に寄贈されて以後は利活用がなされず荒廃が進み、戦後、町立小牧中学校の要望により現在地に移築され、中学校の作法室として使用された。

昭和39年に小牧市の青年活動の拠点として青年の家が創垂館西側に建設されると、その付属施設として利用されたが、平成24年に実施した創垂館の耐震診断により、建物部材の老朽化が著しく、安全に利用することができないとの判断から、同年8月より創垂館の一般利用を中止し、現在に至っている。

創垂館は、平成11年に策定した『史跡小牧山整備計画基本構想』において、史跡センターの建設時にセンター付近へ移築し、周辺の庭園的整備とともに修復整備を行うこととしてきた。しかしながら、平成26年に行った文化庁との協議の中で、現在地もしくは当初に建設された場所への移築以外では、小牧山における創垂館の歴史的経緯からふさわしくないとの判断がなされ、小牧市としては現在地での保存活用を行うこととした。

### 2. 創垂館の保存修理工事に対する市の考え方

創垂館は近世の伝統に基づく格式ある書院造の建築であるとともに、竣工から移築、そして現在に至るまでの小牧山の歴史に因む文化的な価値があると考える。

平成24年の利用の中止から5年が経過し、今後も利活用がなされない状況では、建物が傷み、腐朽や老朽箇所がますます悪化することが懸念される。小牧市としては安全な供用開始と、国の登録有形文化財建造物の登録を見据え、明治21年に迎賓館として建築された当時の姿への復原を行うため、現在地において保存修理工事を早急に進めたい。

今後、本委員会で審議・了承いただいた意見を元に早急に文化庁と協議を行い、国の創垂館保存修理工事に係る現状変更許可を得次第、平成29年度～平成30年度にかけて工事を実施していきたい。

### 3. 創垂館の概要

明治21年建設、木造1階建、間口10間×奥行5間（19.780m×9.945m）、寄棟造、桟瓦葺

正面に間口2間の式台（玄関）があり、その東側には十畳の部屋と十六畳半の主室が続き、その二部屋を幅1間の縁が矩折りに回る。外側には竹の濡縁が付き、濡縁には土庇がかかる。主室は北側に1間半の床の間、東側に付書院をもつ。式台の西側は土間となっている。設計者・施工者共に不明である。なお、方角は現在の建築位置でみたものであり、移築前の式台は西側に面していた。

### 4. 保存修理工事の概要

保存修理工事を進めていくにあたり、明治21年に建設した建物であることから、平成29年度より名古屋工業大学へ復原調査研究を委託し、設計と監理を含めた調査及びデータ、図面等作成を実施した。

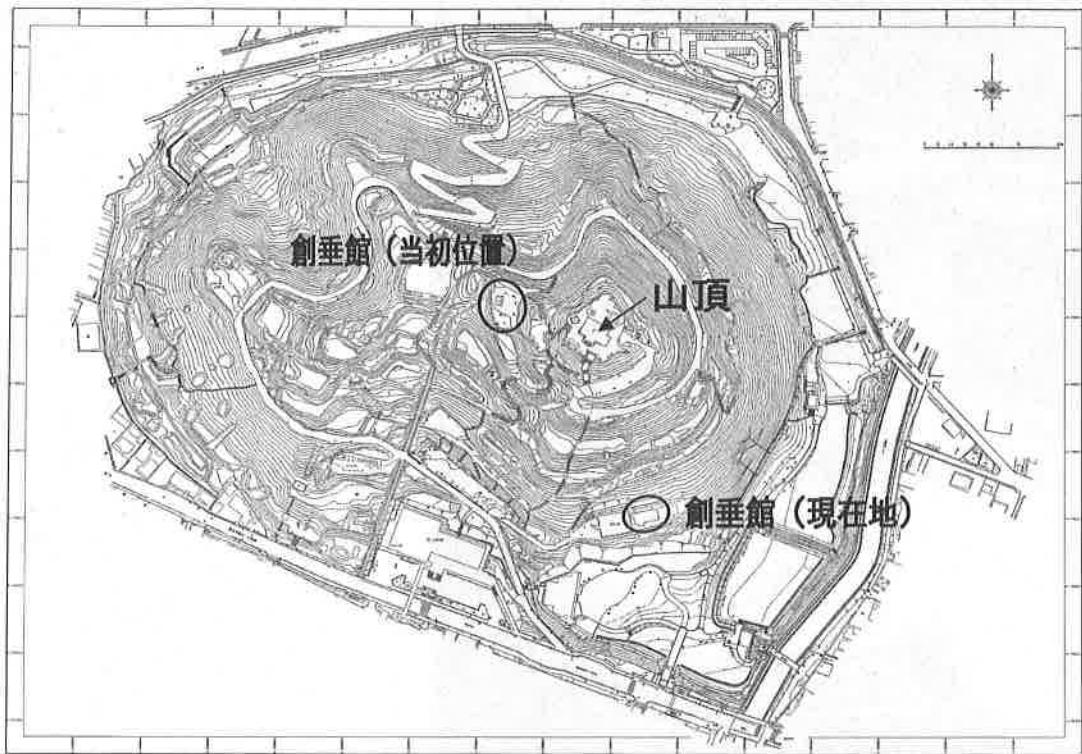
工事の方針としては、建設当時本来の良さや形を活かしたものにしながら修繕をしていく計画で、現地での供用を再開することで、創垂館の歴史的・文化的価値を高めていくことを念頭に置く。

保存修理工事は、部分的に解体をしながら、腐朽、老朽化した部分は、補強の工事や、新しい部材に取り替えていくなど、土台の修繕工事を中心に行う。なお、活用できる部分については、復原調査研究をもとに、活かしていくこととする。その後、復原工事や、壁、瓦、畳、襖などの張替えを行う建具工事、そして利活用ができるよう電気設備や給排水の設備工事などを行っていく計画である。

## 【参考】

永禄 6 年 (1563)	織田信長が小牧山城を築城。
永禄 10 年 (1567)	織田信長は稻葉山城（岐阜城）へ移り、小牧山城は廃城となった。
天正 12 年 (1584)	小牧・長久手の合戦で織田信雄・徳川家康連合軍が廃城となっていた小牧山城を改修して本陣とし、羽柴秀吉軍と対峙する。合戦は和睦により終了し、小牧山城は再び廃城となった。
江戸時代	小牧山は尾張藩領となり、尾張徳川家により、一般の入城は禁止されて手厚く保護された。
明治時代	版籍奉還により小牧山は政府の所有となった後、一時民間に払い下げられるが、明治 6 年には愛知県の所有となり、「小牧公園」として一般に公開された。
明治 21 年 (1888)	山頂西側の曲輪に、県知事の企画により迎賓館的施設として創垂館が建てられた。【創垂館建築】
明治 22 年 (1889)	小牧山は再び徳川家の所有となり、創垂館も徳川家の所有となった。
明治 23 年 (1890)	徳川家は旧藩士を招いて園遊会を開催し、2 日間で約 7,000 人が訪れた。
昭和 2 年 (1927)	小牧山が史跡に指定された。
昭和 5 年 (1930)	小牧山が徳川家から小牧町へ寄贈され、創垂館も小牧町の所有となった。
昭和 24 年 (1949)	戦後、荒廃していた創垂館は、当時小牧山の東麓にあった町立中学校長の要望もあって現在地へ移築され、以後、中学校の作法室として使用された。移設は中学生も手伝って行われた。【創垂館移築】
昭和 39 年 (1964)	青年の家が創垂館の西側に建設され、創垂館はその付属施設となり一般利用された。
平成 10 年 (1998)	中部大学小寺武久教授（故人）による建物調査が行われた。 広い書院座敷、檜主体の良質な材など、総体的にみて質の高い建物であり、保存状態もよく、改造部分の復元は可能である。文化史的な価値からも可能な限り保存することが望ましい、という見解。

平成 11 年 (1999)	前年に史跡外に移転した小牧中学校の跡地整備を行っていくことに合わせて、小牧山全体の整備計画である『史跡小牧山整備計画基本構想』を策定。その中で、中学校校舎跡一帯の整備計画として（仮称）史跡センターを整備することとし、その周辺に創垂館を移築修復整備し、その周辺の庭園整備を行うこととした。
同年	文化庁建造物課登録文化財担当調査官非公式調査。 登録文化財指定に問題なく、移設前でも後でも問題ない、という所見。
平成 19 年 (2007)	創垂館が掲載された『愛知県の近代和風建築』（愛知県近代和風建築総合調査報告書）が愛知県教育委員会から発行された。
平成 24 年 (2012)	1月、創垂館の耐震診断により、建物部材の老朽化が著しく、安全に利用できないという結果が出たため、8月から利用を中止した。
平成 26 年 (2014)	2月に開かれた史跡小牧山整備専門委員会において、文化庁中井調査官より、創垂館を（仮称）史跡センター周辺へ移設することについて、「山頂西側曲輪の本来あった位置に移すならわかるが、管理がしやすいだけでここへ移設するというのは理由にならない。コンセプトがしっかりしていないといけない。」という発言を得る。以後、創垂館の（仮称）史跡センター周辺への移設を断念し、現在地での利用計画を目指す。
平成 27 年 (2015)	府内で、創垂館の今後の取扱いを検討し、復原・修理のため、翌年に現状調査を行うこととした。
平成 28 年 (2016)	名古屋工業大学に創垂館の現状調査を委託。 実測調査と実測図の作成、及び外観、内観の写真撮影等の記録を作製。また建物に残された痕跡や古写真、文献史料から創垂館の復原的考察を行った。その結果、平面的にはほぼ建築当初の状態が明らかになった。建築当初に近い建物に準じて利活用ができるよう、修繕を行うこととした。
平成 29 年 (2017)	名古屋工業大学に創垂館の現況調査と復原調査研究を委託するとともに、保存修理工事の実施設計を行う。



創垂館現在地（平成 10 年 小牧山地形測量図）



創垂館当初位置（昭和 2 年 小牧山地形測量図）



外観（南西から）



外観（東から）



室内（南西から）



室内（北東から）



縁（西から）



濡縁（南東から）



濡縁上土庇（西から）



式台入口タイル（南から）

# 創垂館保存修理工事の概要

## 1. 事業年度 平成29年度～30年度

## 2. 目的及び効果

築120年以上経過した創垂館は建物の各部が老朽化しており、平成24年8月から利用中止している。今後、子ども向けの講座や文化的活動等を中心に行う施設として、利活用の再開をするため修理を行っていく。

## 3. 修理工事の概要

修理は2ヵ年わたり、部分的に解体しながら行っていく。大きく分けて、以下の工事を予定する。

### ① 仮設工事

…創垂館周囲の足場を組み、屋根・壁面を養生する。資材置場用の倉庫、作業員用の休憩場を設置。(図面 全17葉の内2～4号)

### ② 解体工事

…屋根瓦はじめ壁面、銅板、畳、床、器具、ガラス戸など取り降ろし、取り外しを行う。(図面 全17葉の内5号)

### ③ 木工事

…柱をはじめ天井から床板にいたる木・板の腐朽、破損部を、極力在来材を用いて補修を行う。(図面 全17葉の内6号)

### ④ 屋根工事

…瓦葺、銅板、雨樋などの補修、葺き替え、新設する。  
(図面 全17葉の内8～10号)

### ⑤ 左官工事

…下地の補修、土壁の塗り直し・復原、漆喰施工する。  
(図面 全17葉の内6号)

### ⑥ 建具工事

…障子、襖の張替え、建具の補修、立て付けの調整を行う。  
(図面 全17葉の内6号)

### ⑦ 雑工事

…畳の張替え、建物外回りの補修・塗り直し、石の新調・据え直し。  
(図面 全17葉の内6～7号)

### ⑧ 給排水設備工事

…台所・御手洗いの新設、青年の家の下水管へ接続するための給排水管を床下に設置。(図面 全17葉の内14号)

⑨ 電気設備工事

…既設の配線をできる限り利用し、各室の電源コンセントを設置。  
(図面 全17葉の内15号)

⑩ 空調設備工事

…各室のエアコン、台所の床暖房の設置。  
(図面 全17葉の内15～16号)

⑪ 自動火災報知機設備工事

…各室の自動火災報知機の設置。(図面 全17葉の内17号)

●耐震診断

平成29年4月10日～9月29日の期間において、滋賀県の一級建築士事務所川端建築計画に診断を委託。調査は、現地での実測調査や建物の計測を行い、それを基に解析。その結果、必要耐震性能を満足するという結果を得た。

◎耐震補強計画

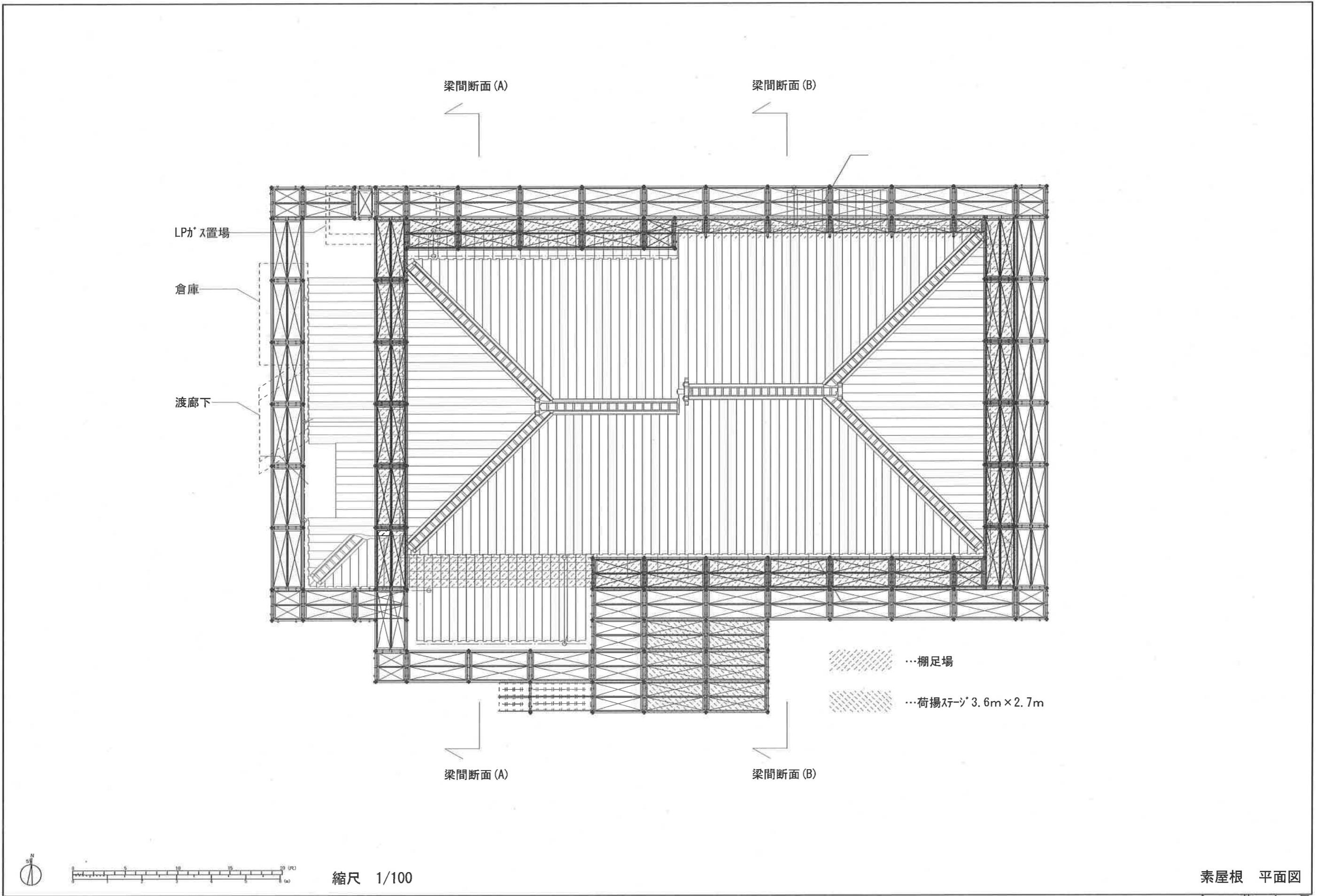
耐震診断は、満足を得る結果であるが、一部において、耐震性能を追加する補強を計画する。創垂館主座敷の東部分、天井裏及び床下に土壁の追加。そして、北濡縁となりの戸袋部分に板壁を追加する計画。

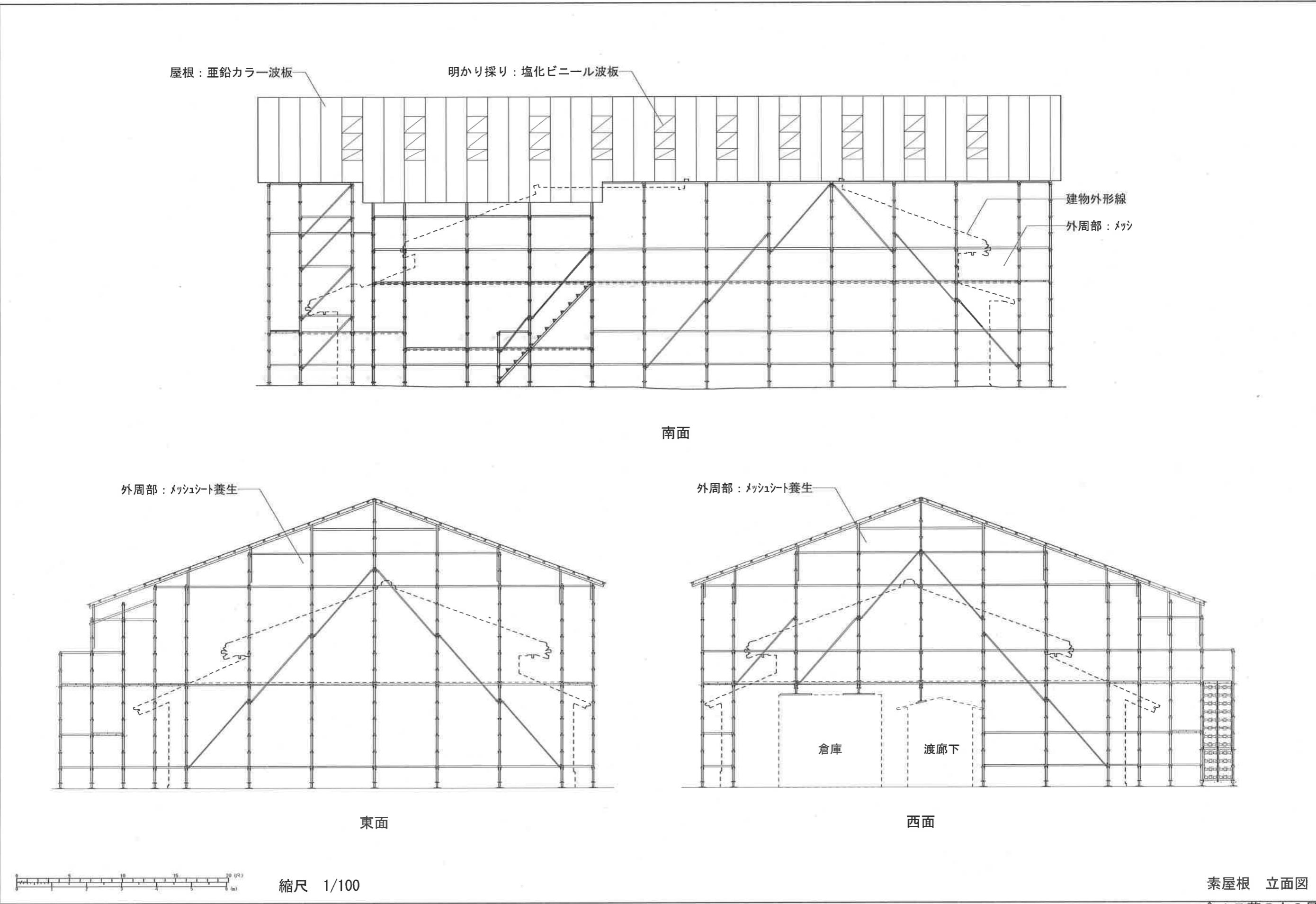
(図面 全17葉の内11～13号)

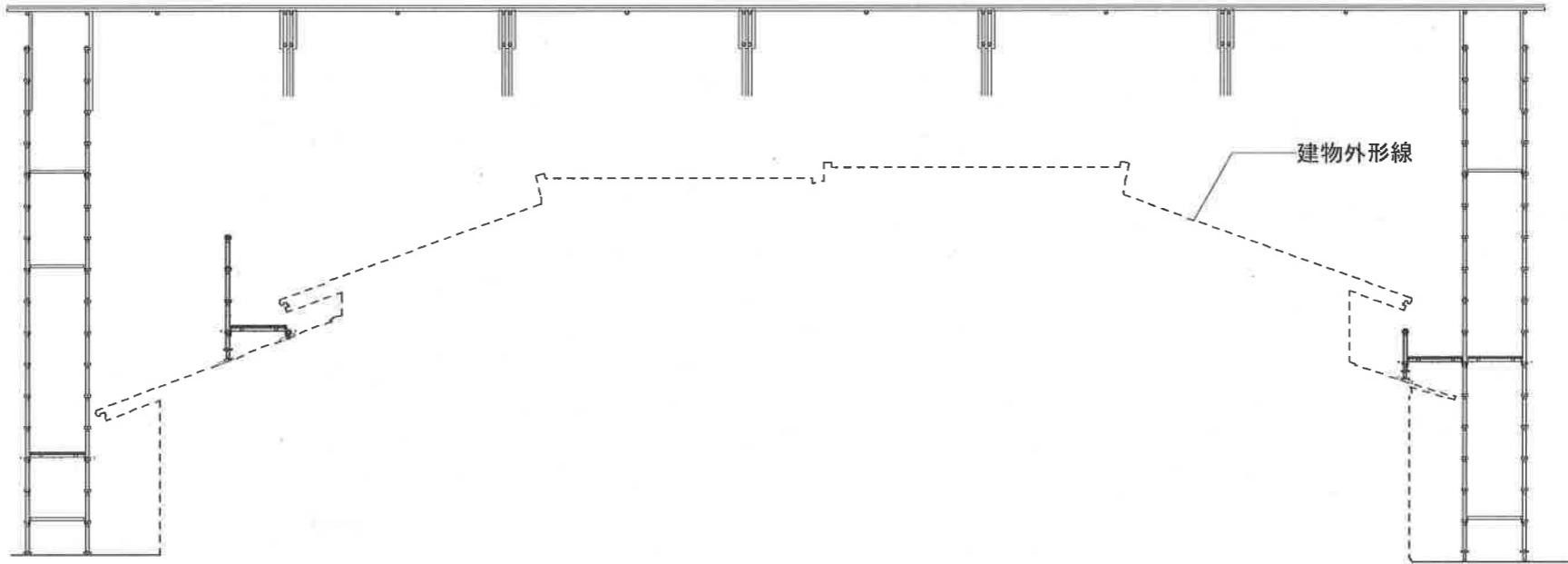


# 創垂館 保存修理工事 設計図

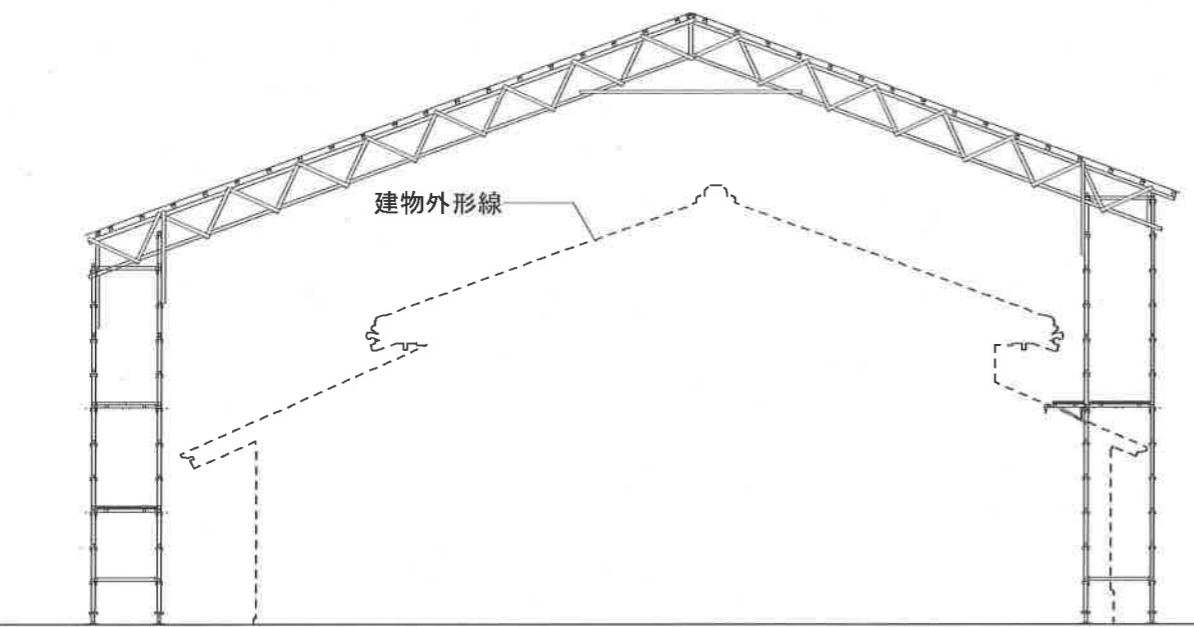
設計 名古屋工業大学大学院 教授 麓 和善  
名古屋工業大学 産学官連携研究員 戸上 薫



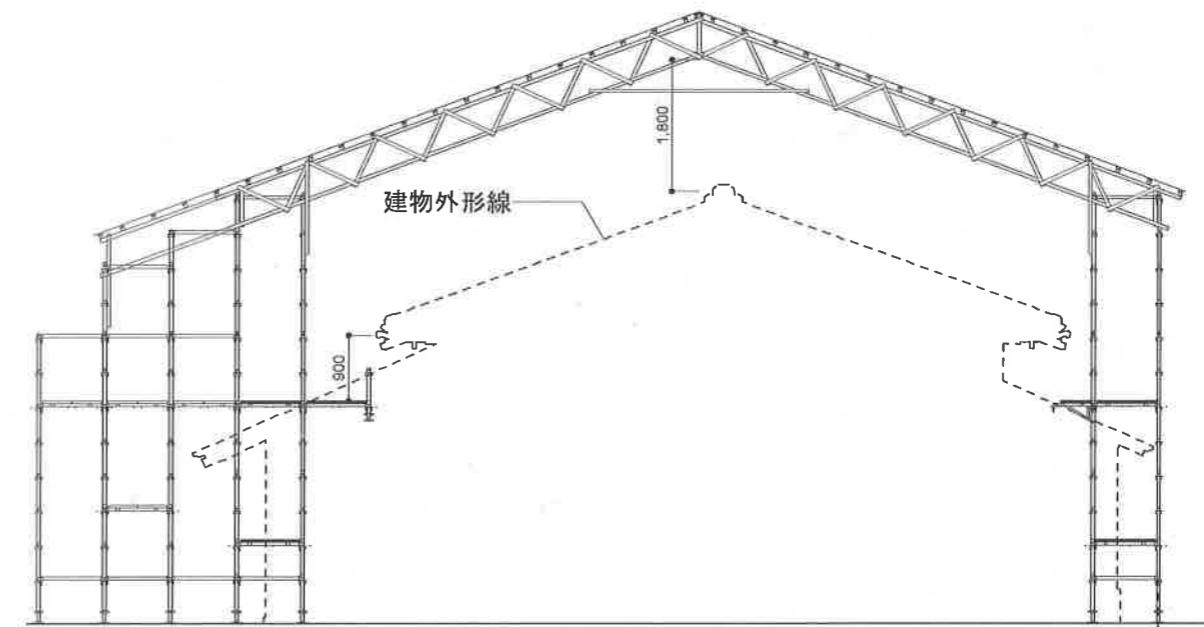




平行断面図



梁間断面図(A)



梁間断面図(B)



縮尺 1/100

素屋根 断面図

全17葉の内4号

解体工事

土台・柱腐朽部揚家

同上腐朽・蟻害部撤去

物置・土間・納戸の後補内装・床板撤去

畳運び出し（表替え）

主座敷・次の間・広縁・板間・納戸・北縁・北濡縁・雪隠床板取り外し

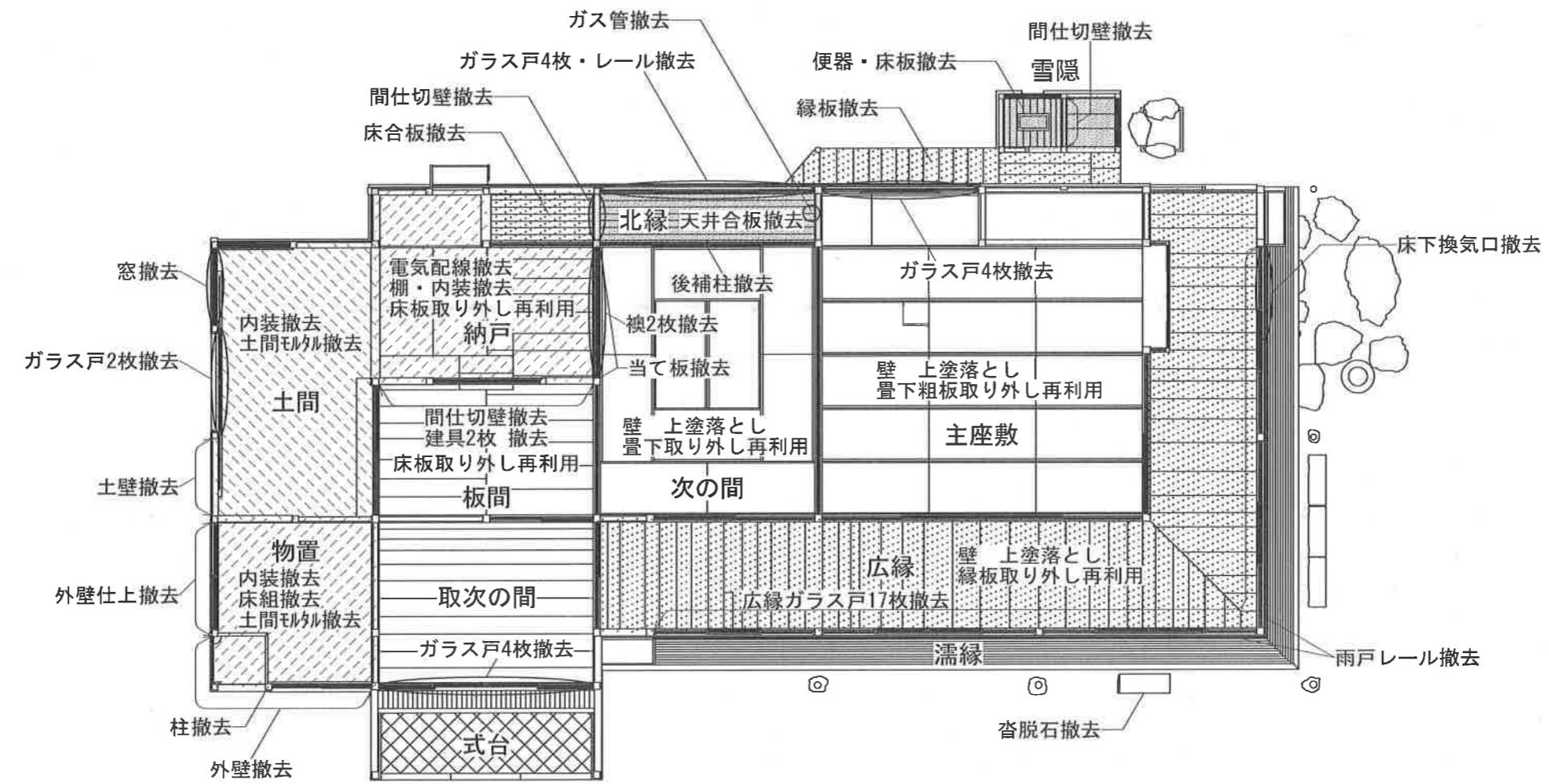
物置は床組まで撤去

北縁西側・納戸南面・物置南側の壁撤去

内部壁ちり際のシリコンシール撤去

照明器具撤去（全室）

ガラス戸撤去



縮尺 1/100

現況平面図

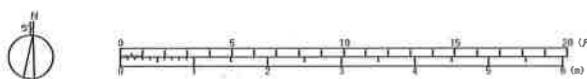
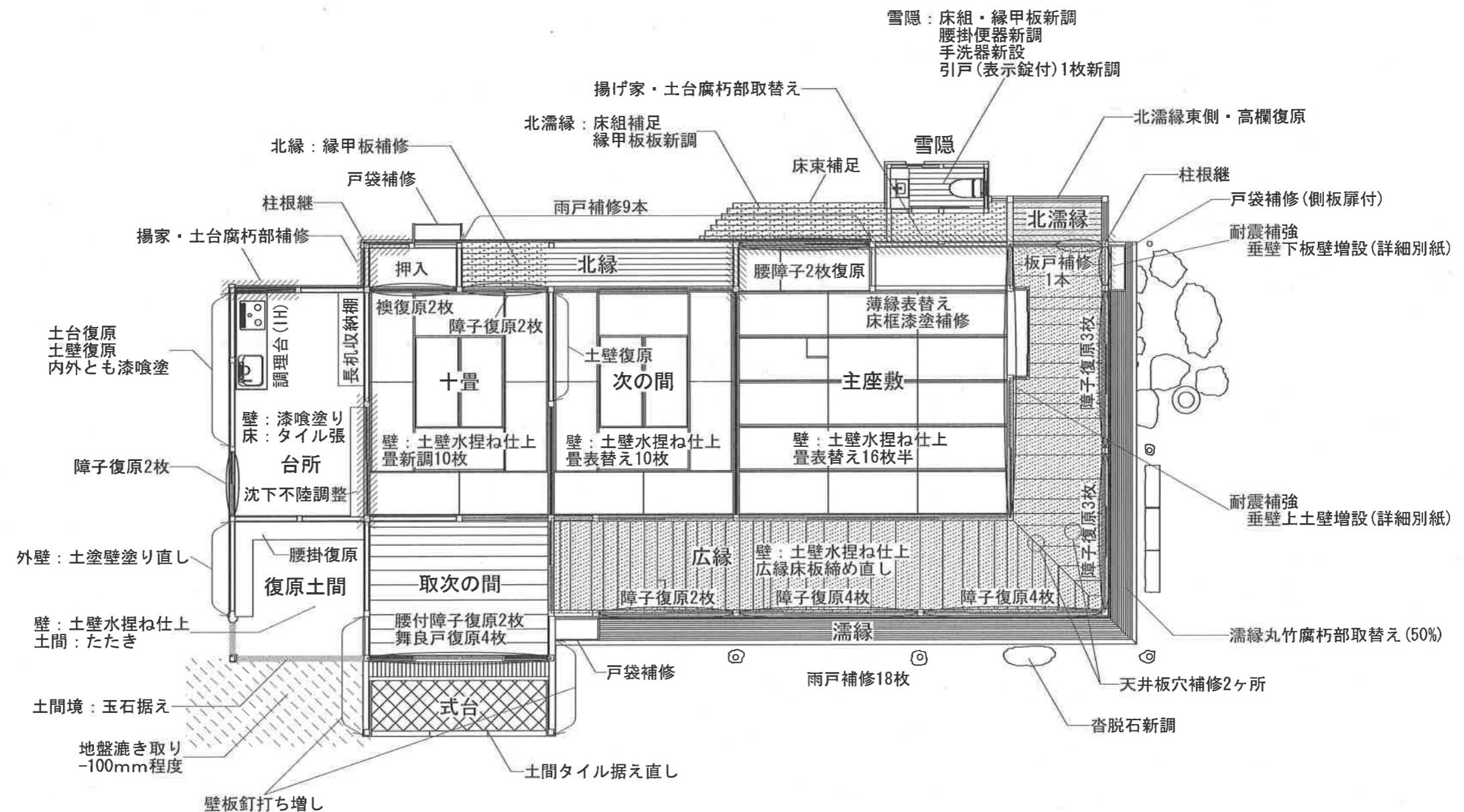
全17葉の内5号

**木工事**  
土台・柱・束・大引・根太・床板・敷居・鴨居・天井板・濡縁丸竹・  
戸袋板・垂木・野地板・広小舞・化粧裏板の腐朽・破損部の補修  
軸部不陸調整

**左官工事**  
塗壁上塗り直し  
破損部補修  
一部土壁復原（小舞下地より復原）  
復原土間たたき仕上

建具工事  
建具復原  
建具補修  
襖紙張替え  
障子紙張替え  
建て付け調整

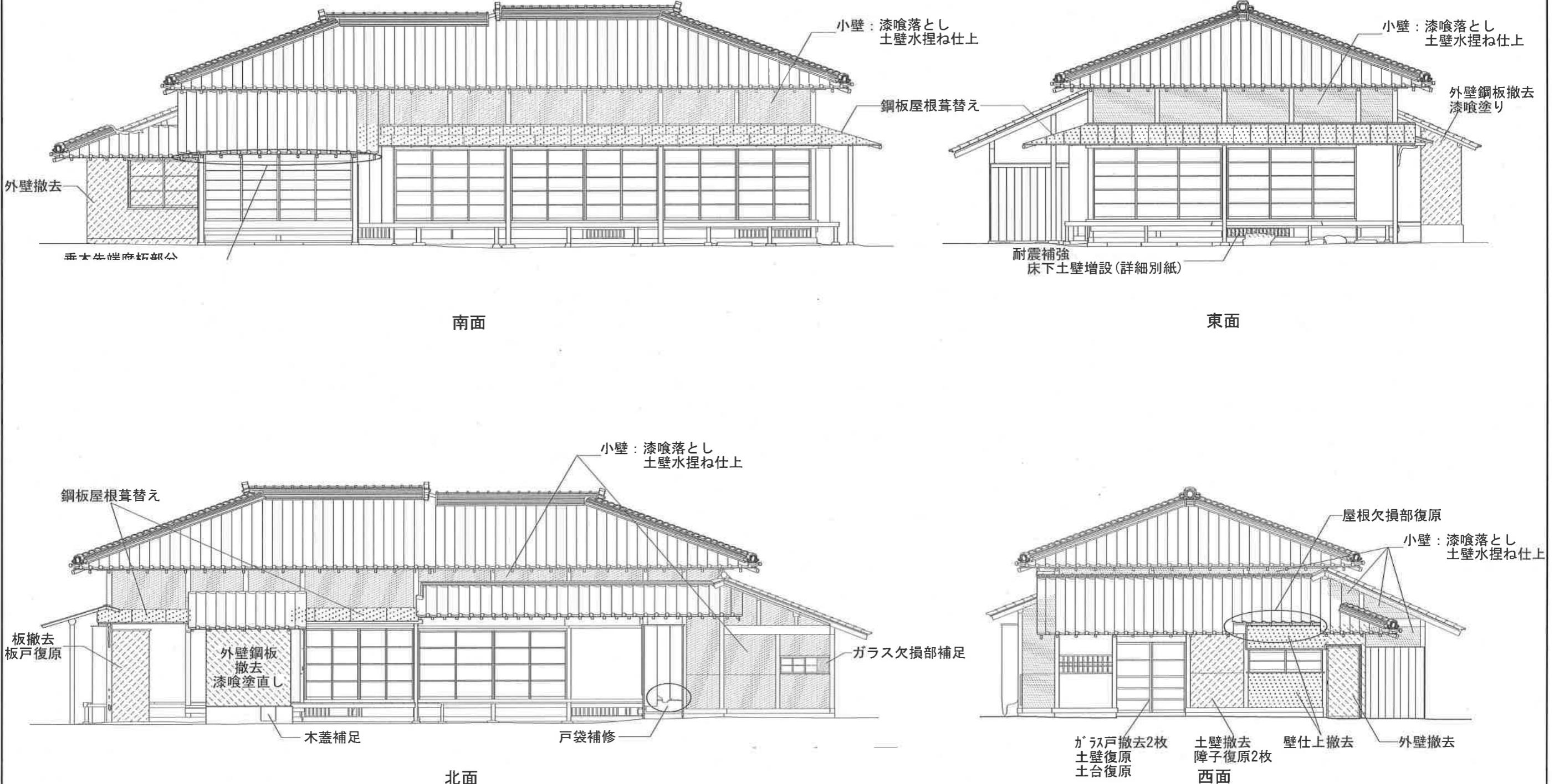
雜工事  
置表替え (26枚半)  
薄縁表替え  
畳新調 (10枚)  
沓脱石新調  
玉石据え  
立蹲据え直し



縮尺 1/100

復原平面図

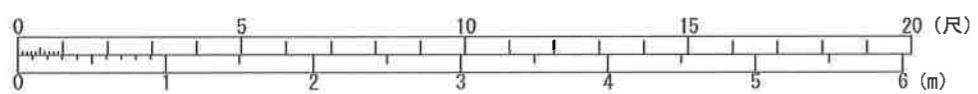
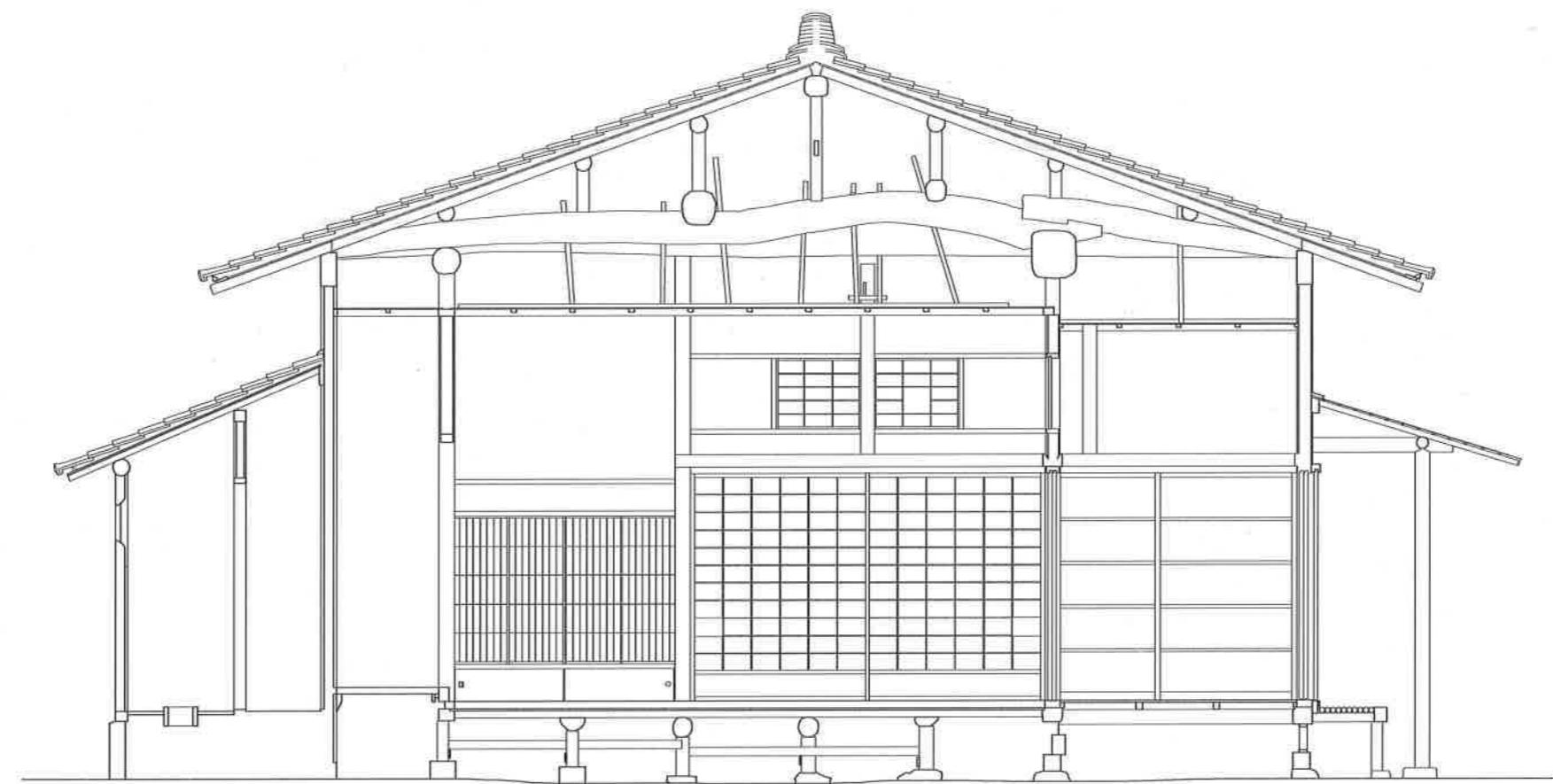
全17葉の内6号



縮尺 1/100

現況立面図

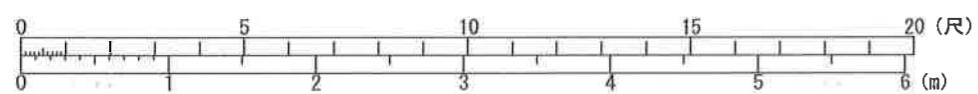
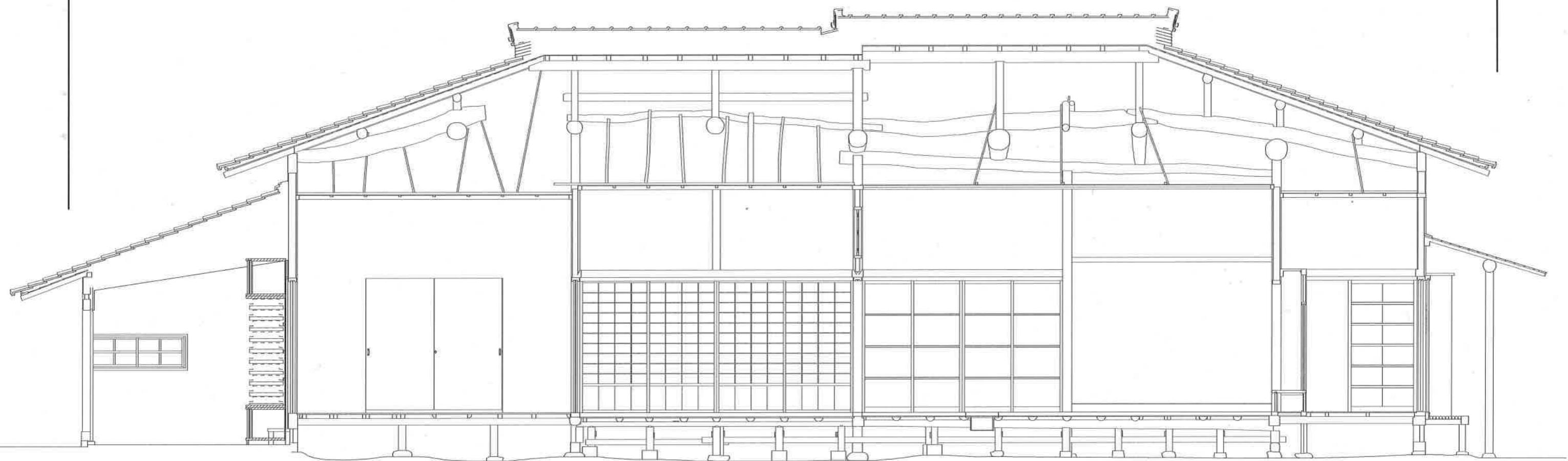
全17葉の内7号



縮尺 1/50

現況梁間断面図

全17葉の内8号



縮尺 1/50

現況桁行断面図

全17葉の内9号

瓦屋根  
瓦、土居葺きすべて取りおろし

旧瓦選別・清掃

野地板・化粧裏板・垂木・広小舞の腐朽・破損部補修

補足瓦新調

杉皮葺き

棟瓦葺き

雀口漆喰塗り

鋼板葺庇

鋼板すべて取り外し

化粧裏板腐朽・破損部補修

アルミ亜鉛めっき鋼板葺直し

雨樋

既存雨樋すべて取り外し

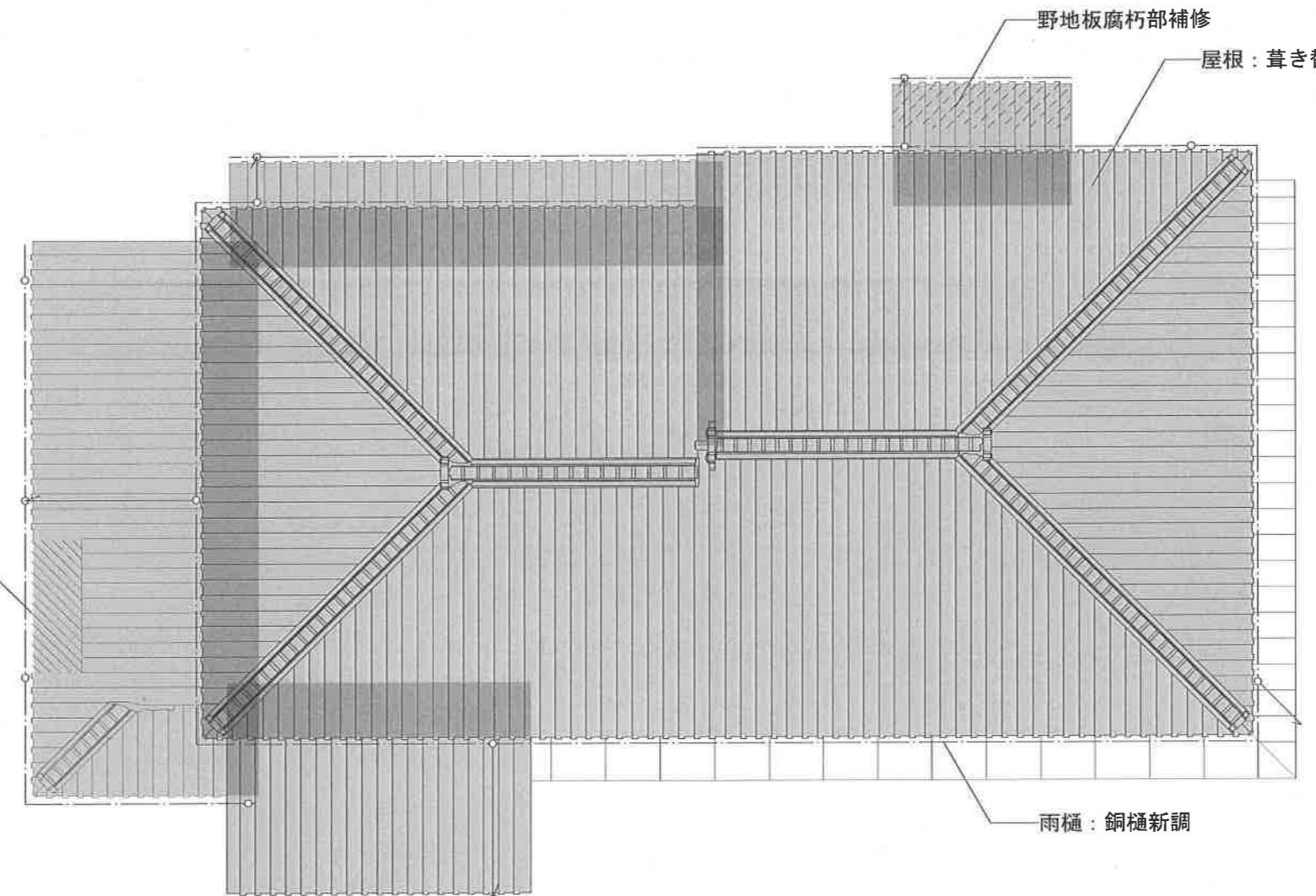
銅樋新調

屋根欠損部  
垂木復原  
野地板復原  
杉皮土居葺  
棟瓦葺

野地板腐朽部補修

屋根：葺き替え

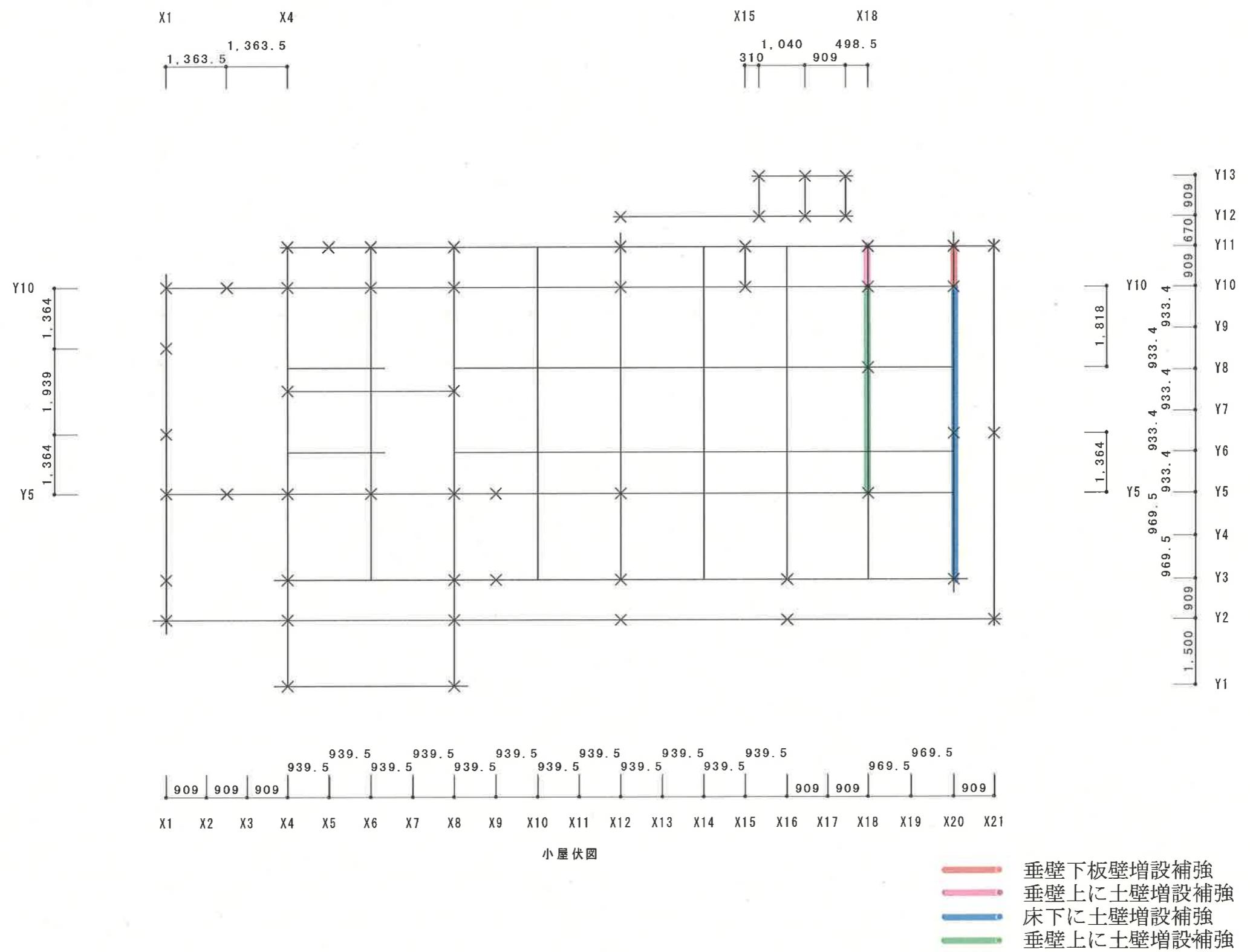
雨樋：銅樋新調



縮尺 1/100

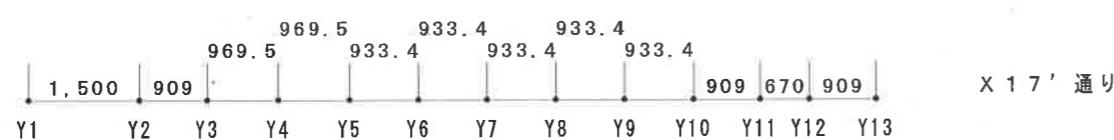
屋根伏図

全17葉の内10号

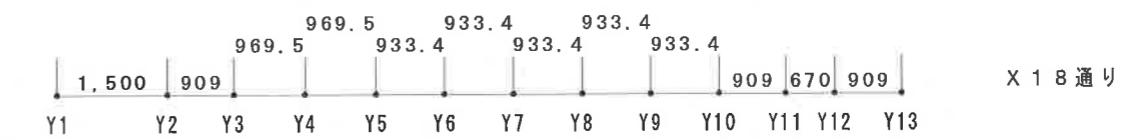
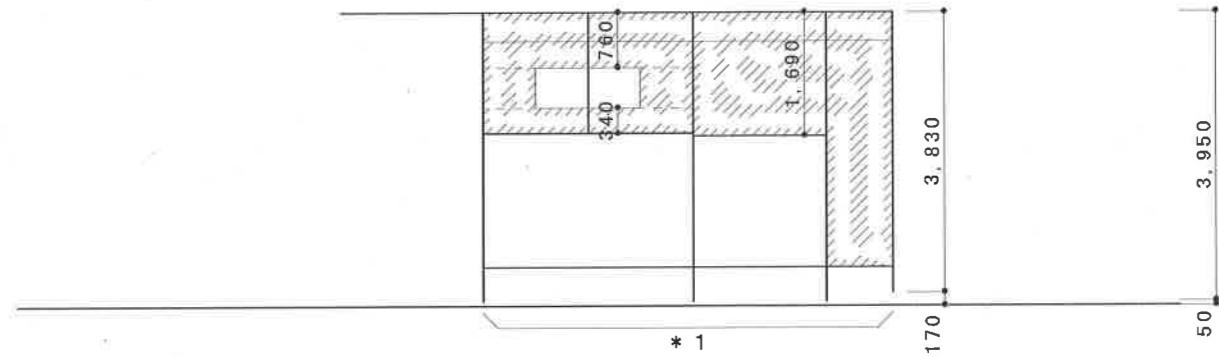


小屋伏図

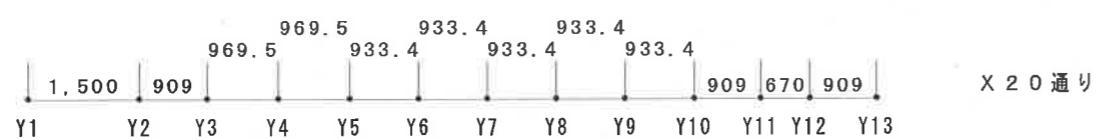
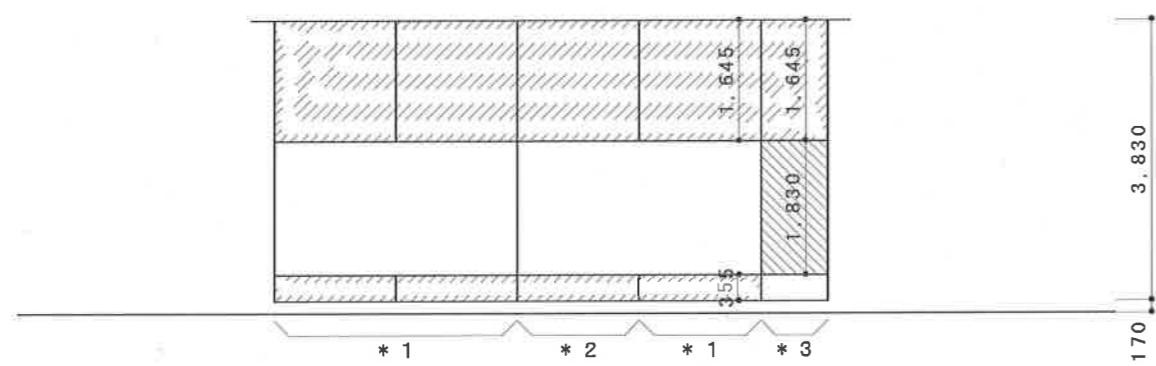
- 垂壁下板壁増設補強
- 垂壁上に土壁増設補強
- 床下に土壁増設補強
- 垂壁上に土壁増設補強



補強なし



\* 1 天井裏の土壁を追加する。



\* 1 床下の土壁を補修する。

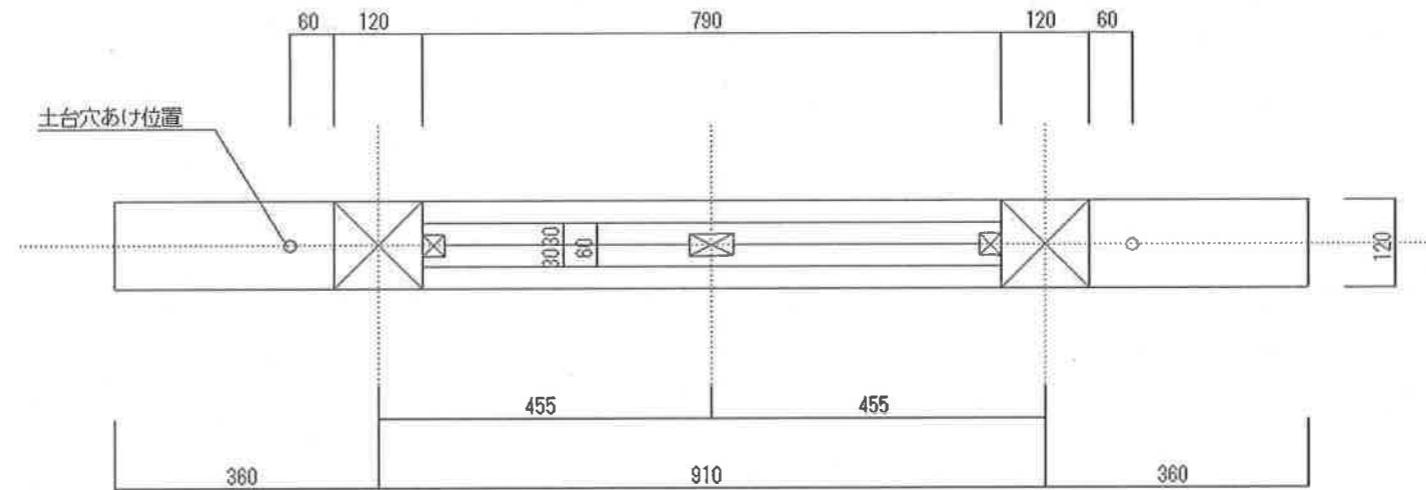
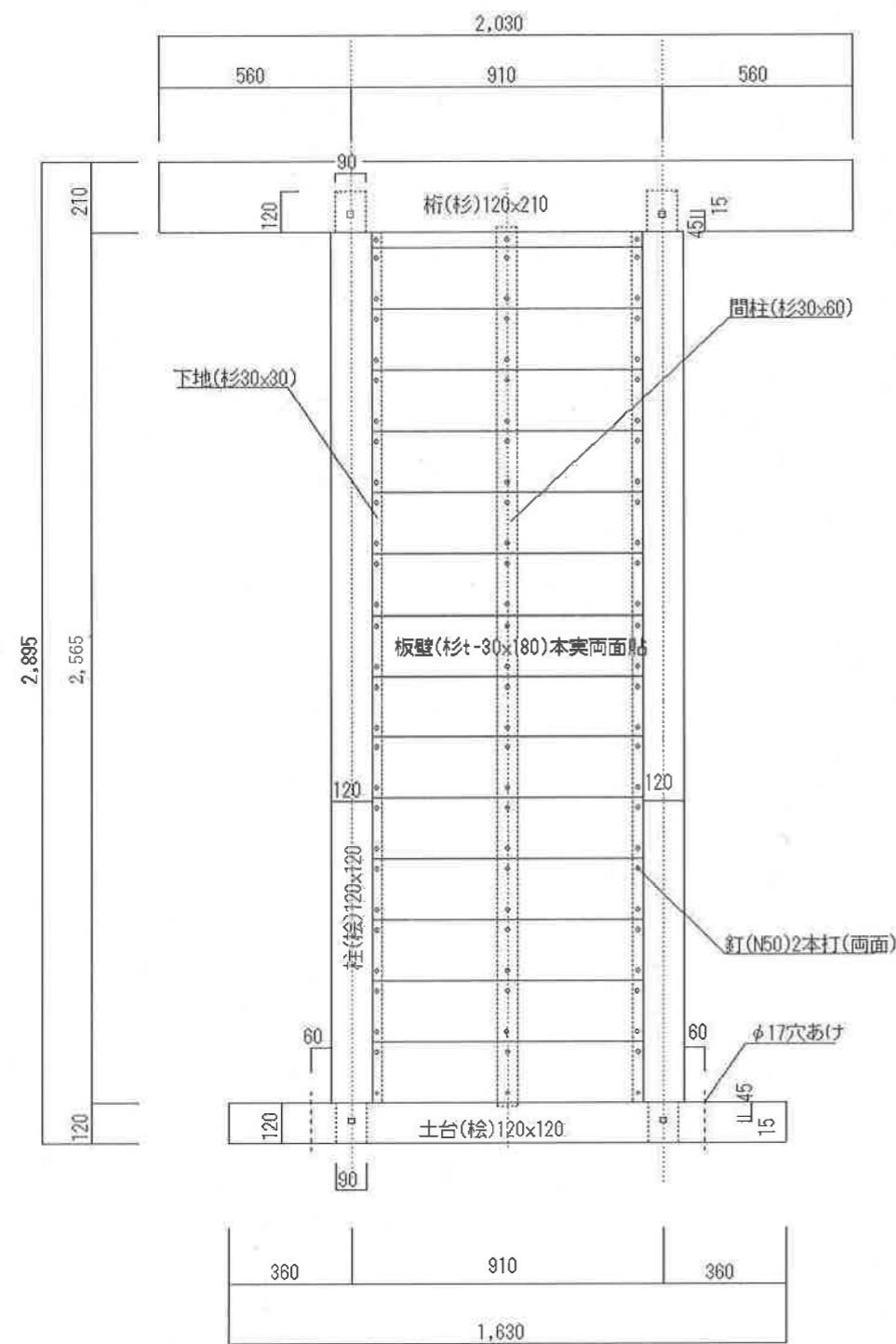
\* 2 床下の土壁を新設する。

\* 3 垂壁下に板壁を追加する。

凡 例 (共通)	
	土壁厚60を示す
	長ほぞの端部を示す
	板壁補強を示す
	板壁 t-30×180 杉 本実両面貼釘N50 2本打 (両面) 間柱 30×60 杉 (柱間を0.5P間隔で設ける)

耐震補強軸組図

全17葉の内12号



断面伏せ図

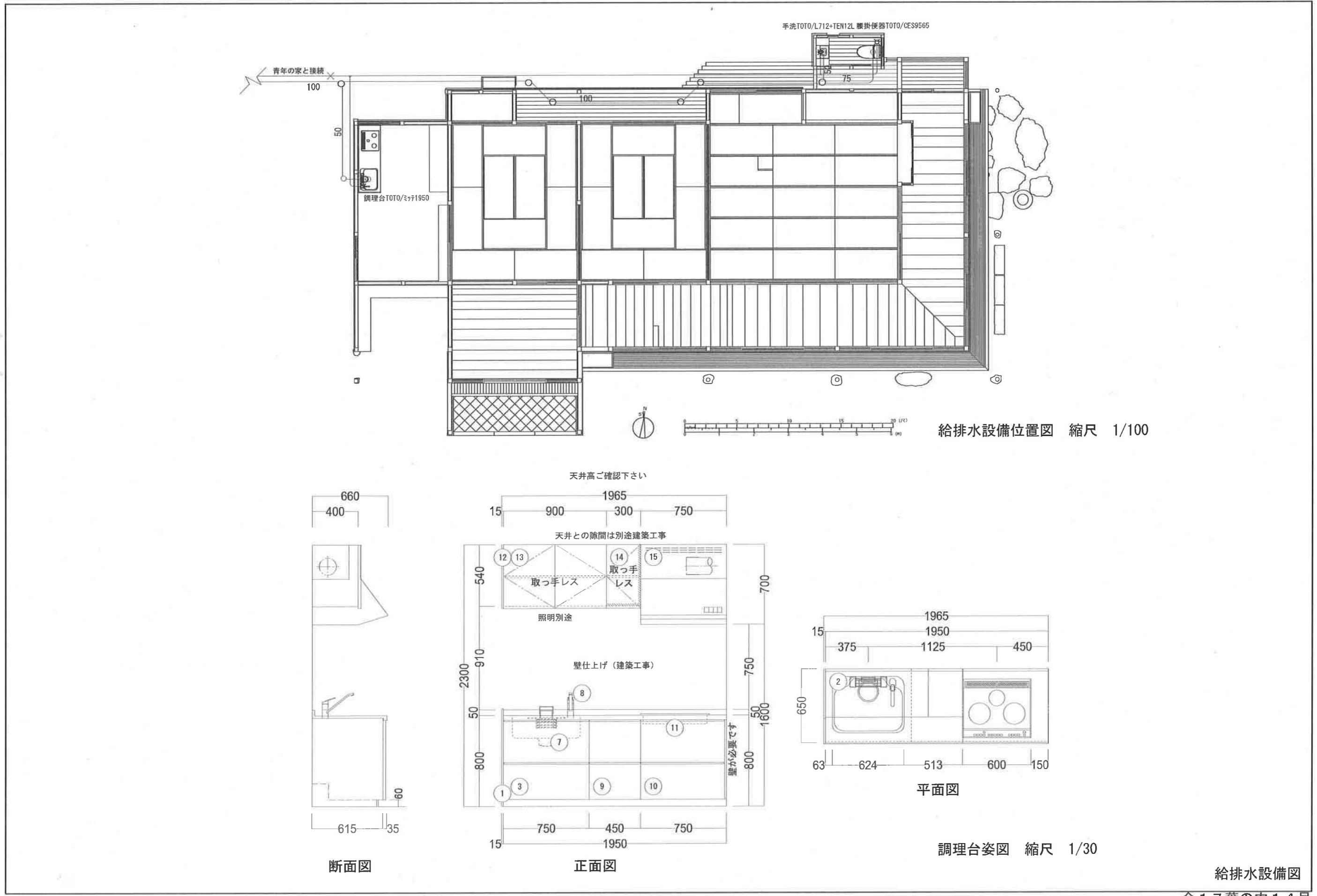
## 2012年E-ディフェンス実大振動台実験の試験体No. 5及びNo. 6に 使用した板壁の1P試験体

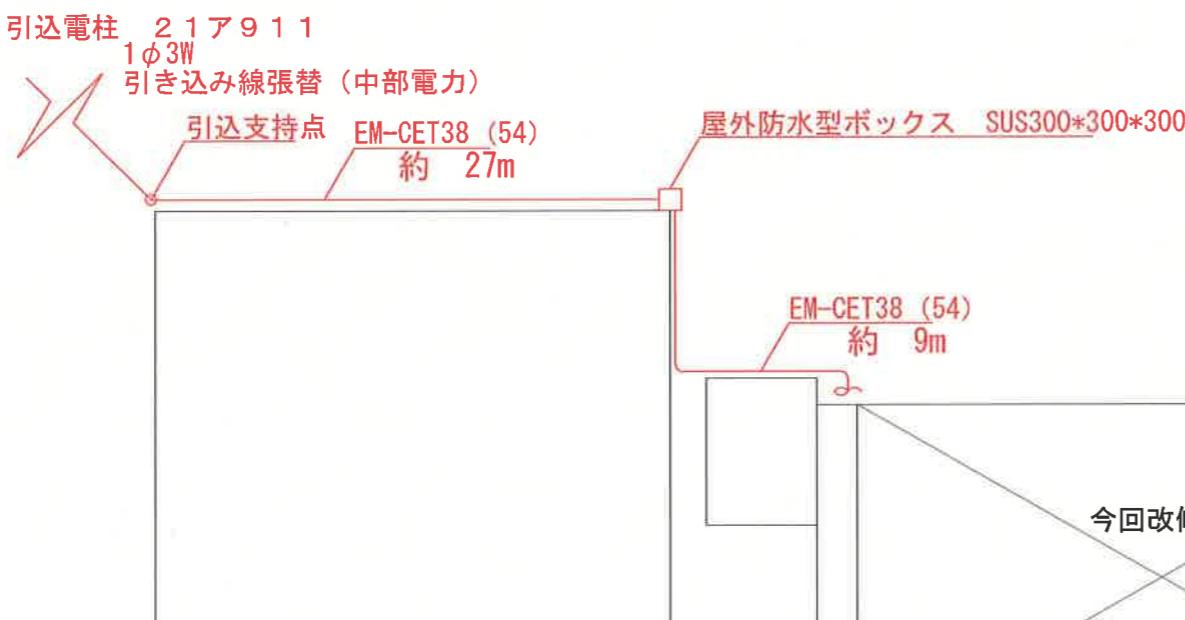
補強板壁の仕様は、この試験体の仕様に準じる。

## 耐震補強板壁仕様参考図

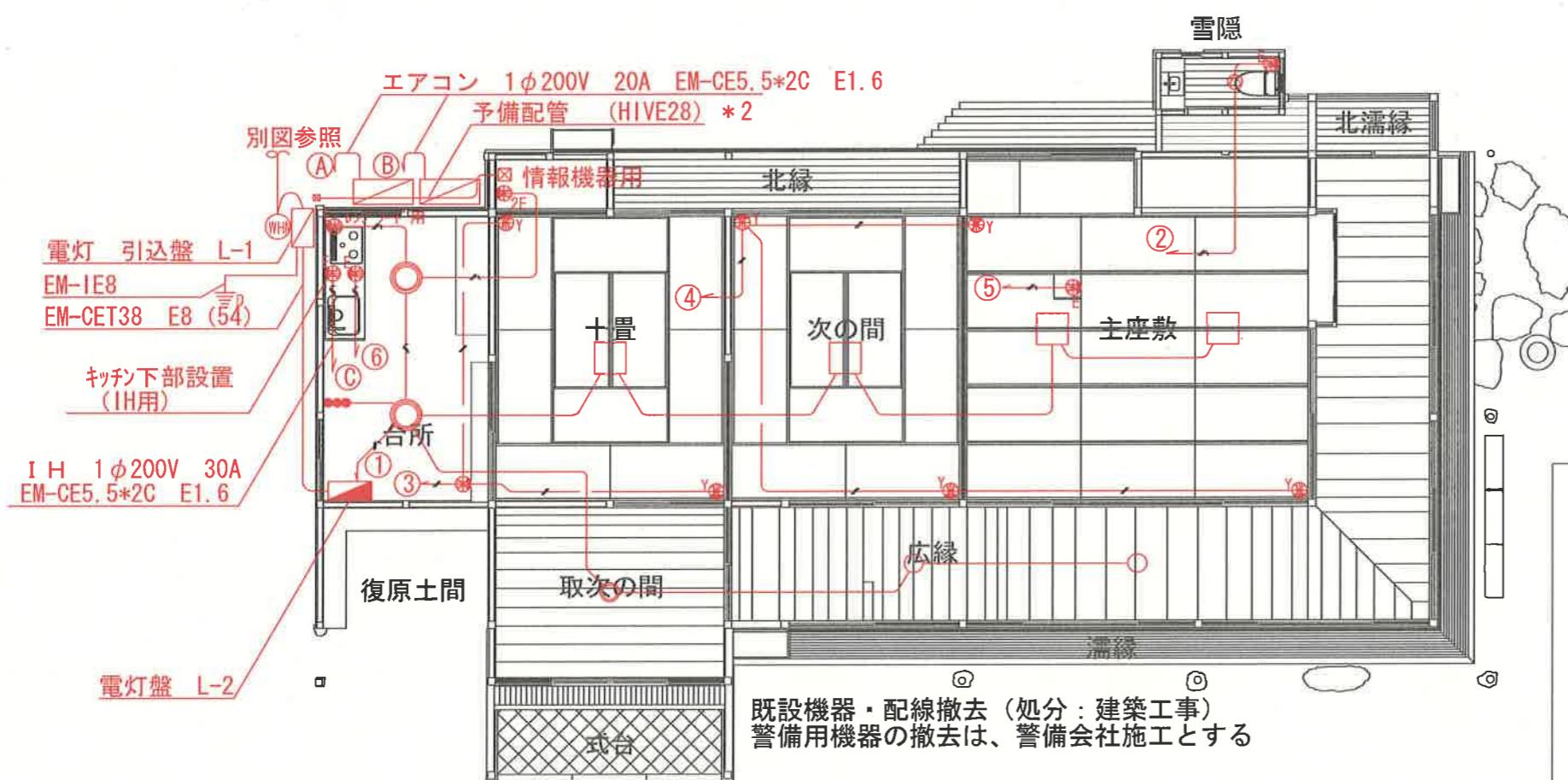
---

### 全17葉の内13号

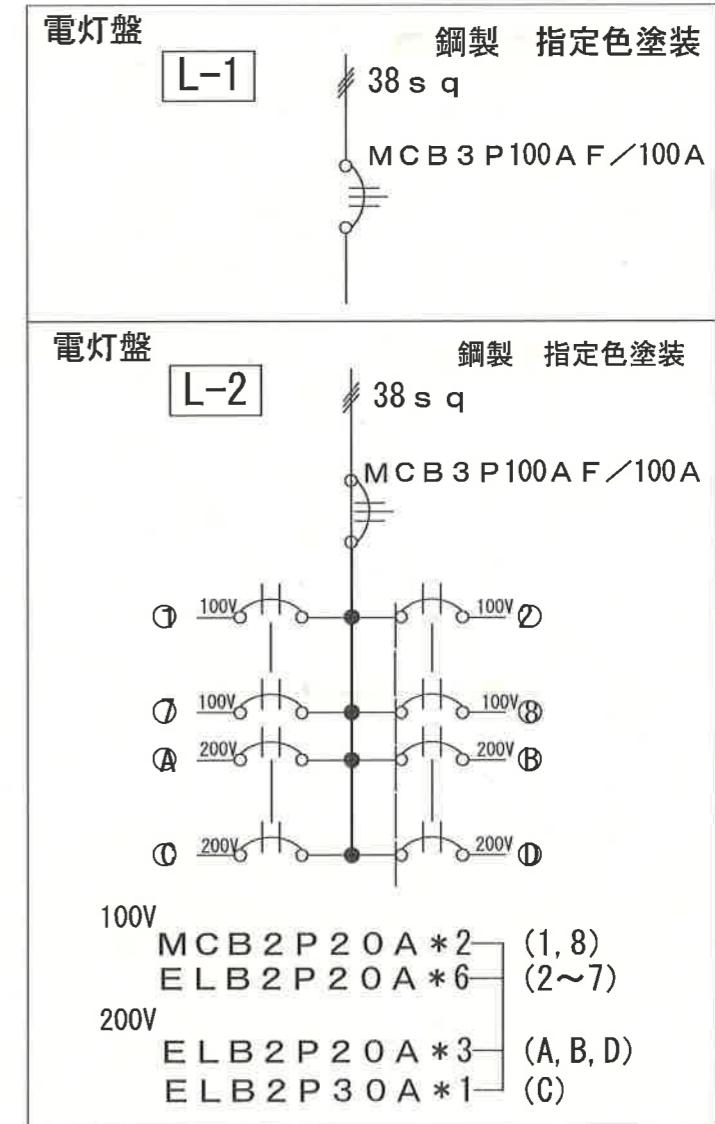




引込配管概略図



電気設備図 縮尺 1/100



凡例

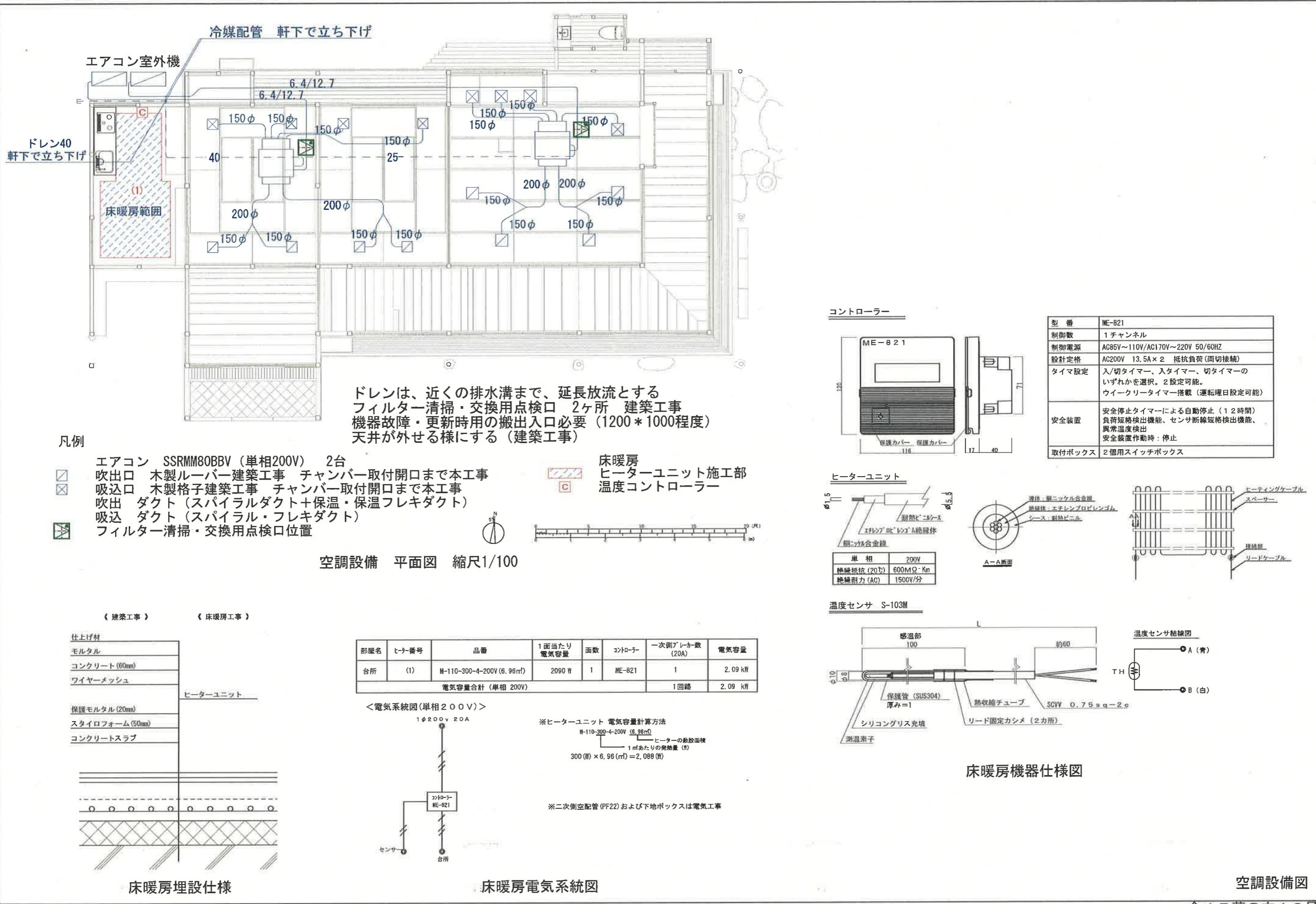
- EM-EEF2.0\*2C
- EM-EEF2.0\*2C E1.6
- EM-EEF1.6\*3C
- EM-EEF1.6\*2C

E=EM-IEとする  
3,4番回路は、床下配線とする

- Y コンセント床に取付 (神保1053)
- E アース付きコンセント(シャッター付き)
- 2E アース付きダブルコンセント(シャッター付き)
- ダブルコンセント (シャッター付き)

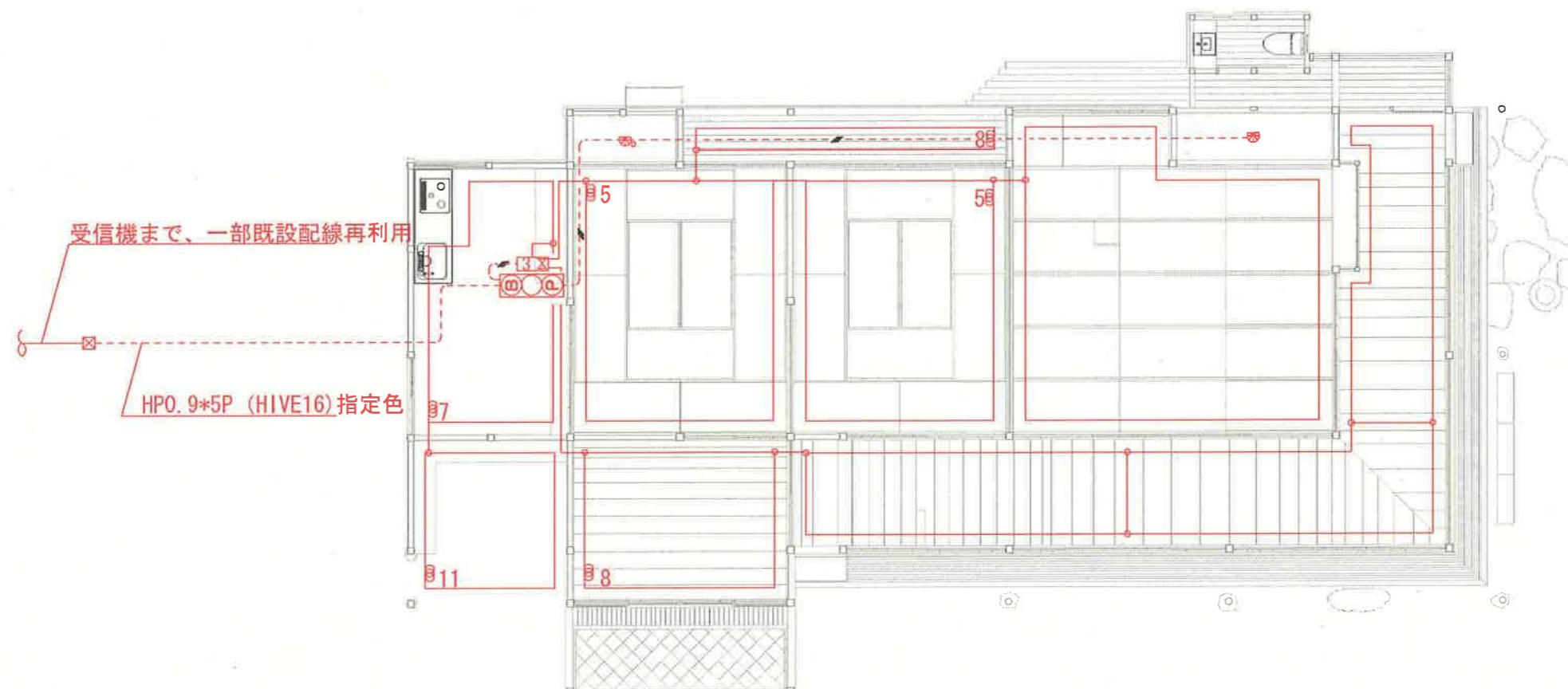
- |      |                  |
|------|------------------|
| 照明器具 | AH42572L         |
|      | AH43123L         |
|      | AH43123L+リモコン    |
|      | AH42081L(センサー付き) |
|      | AH43121L+リモコン    |

電気設備図



AE0. 9\*4C  
 空気管（指定色）  
 空気管余長  $x$  は、余剰巻き数を表す  
 空気管接続部  
 差動式スポット型感知器  
 総合盤取替（ボックスのみ指定色）

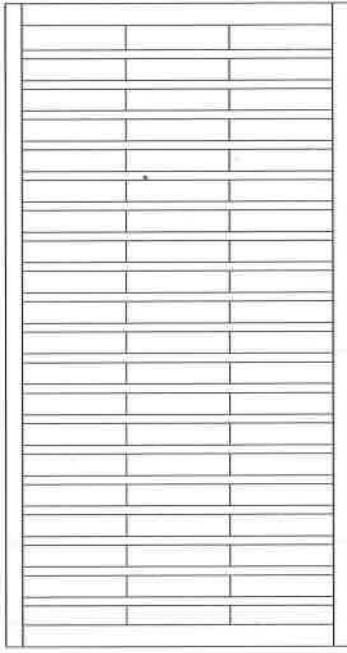
空気管は、天井色に合わせる。（監督員と打合せの上決定とする、天井色により色分け部分有り）  
 空気管は、極力目に触れない様施工する事（監督員の指示により施工する事）  
 既設機器撤去（既設取外し後の補修は建築工事）及び 配線替え



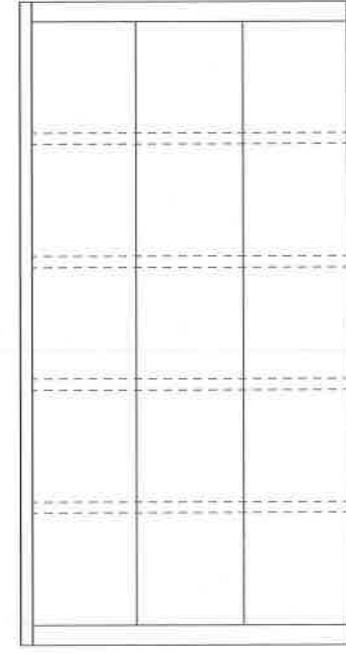
縮尺 1/100

自動火災報知設備図

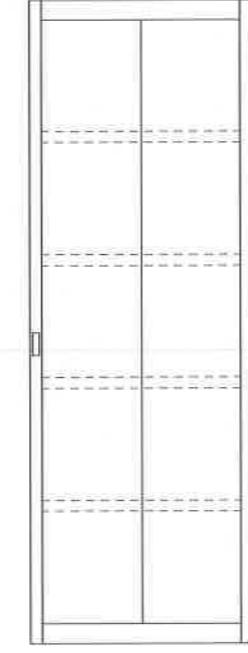
全17葉の内17号



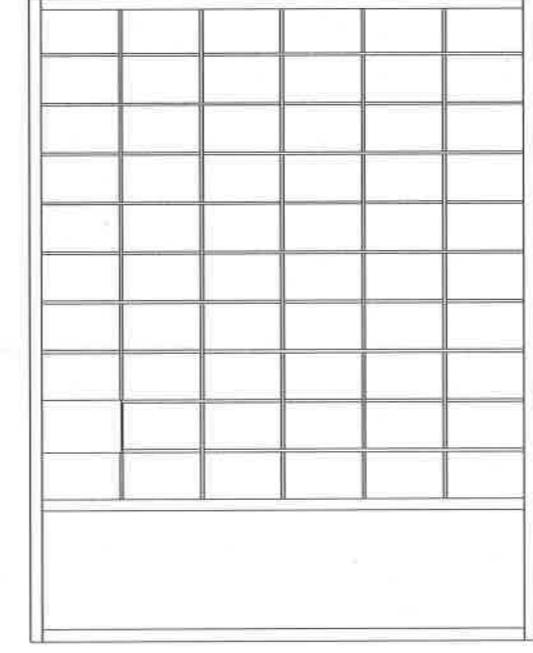
舞良戸復原  
取次の間  
桧 4枚引き違い  
32\*932\*1758  
錠付



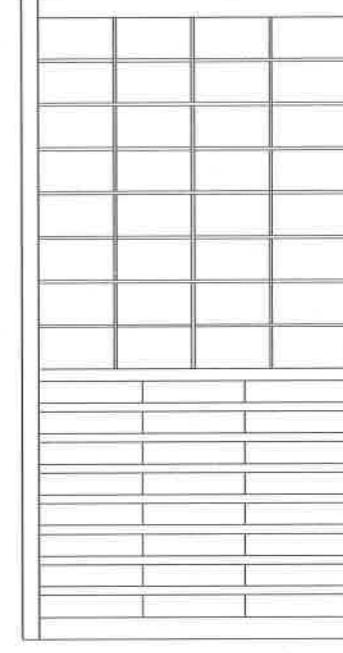
板戸復原  
広縁北面  
桧 1枚片引き  
32\*921\*1758  
錠付



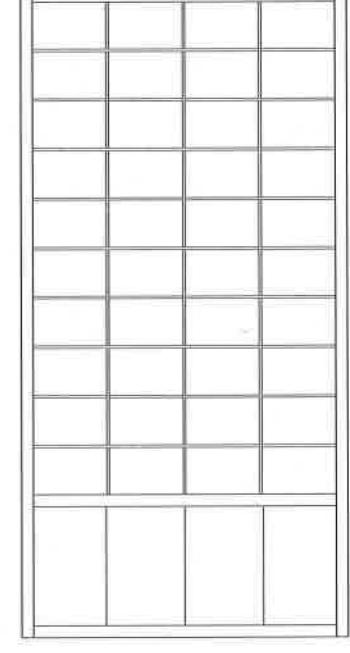
板戸新調  
雪隠  
桧 1枚片引き  
32\*608\*1758  
錠付



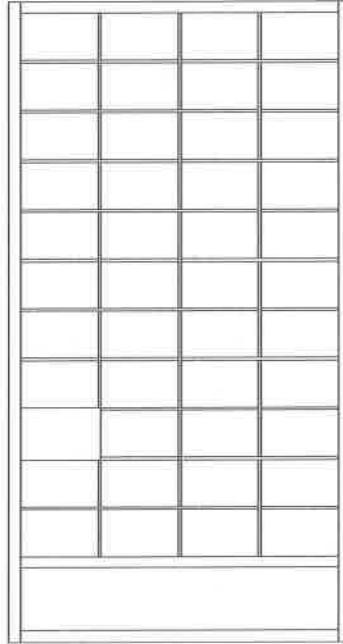
腰障子復原  
主座敷北面  
桧 2枚引き違い  
32\*1350\*1758



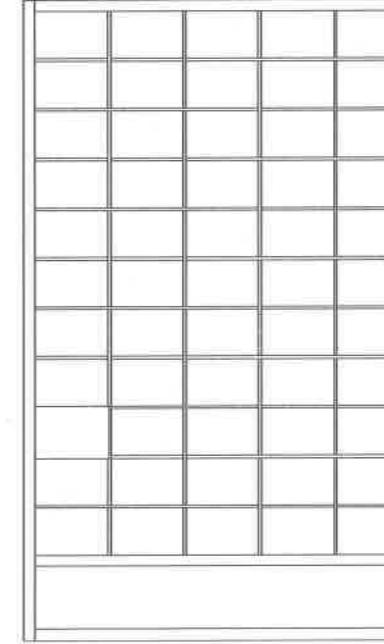
腰障子復原  
取次の間  
桧 2枚引き分け  
32\*925\*1758  
同室北面障子に倣う



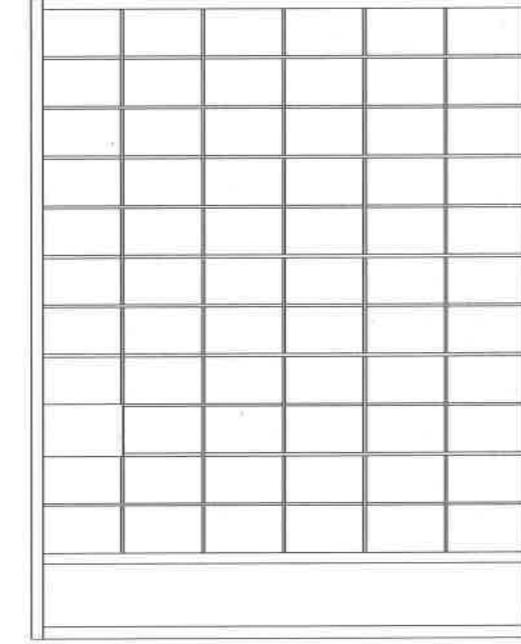
腰障子復原  
十畳北面  
桧 2枚引き違い  
32\*894\*1758  
次の間北面障子に倣う



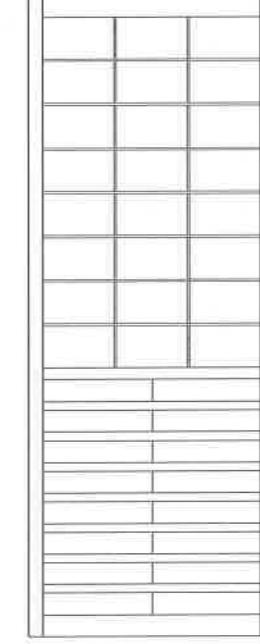
障子復原  
広縁南面  
桧 4枚引き違い  
32\*925\*1758



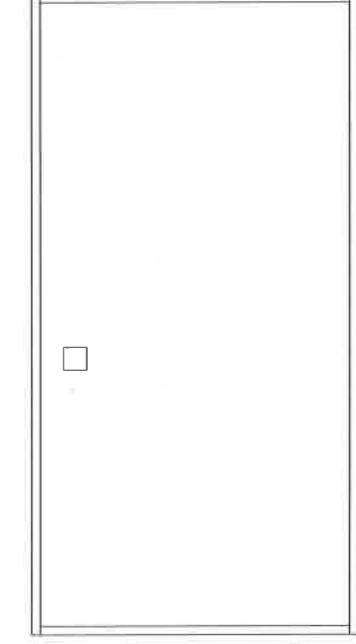
障子復原  
広縁東面  
桧 3枚引き違い×2組  
32\*1082\*1758



障子復原  
広縁南面東側  
桧 2枚引き違い  
32\*1380\*1758



障子復原  
台所  
桧 2枚引き違い  
32\*674\*1758  
錠付



襖復原  
十畳押入  
2枚引き違い  
21\*894\*1758  
特漉鳥の子和紙1号  
新調建具姿図